

11 やりたい (かった?) ことは、「理想」と「現実」の間で苦悩する人達への応援?!

堂本 彰夫

(1) (外からの)「理想」(要求)と(内部の)「現実」(反発)がパラレルワールド(並行時空)化している?!

重ねし馬齢の必然?いつか来る、決断の時?とにかく、最近の私が、自らの「気力喪失(もう、これでいかあ…)」を、かなり顕著に感じ始めていたことは事実であり(他の人も気づいていた?笑)、近いうちに、その事実に対する、自分なりの決着(踏ん切り?)をつけなければいけないと思っていたことは、これまた事実である?!要は、いつまでも現役でいることは出来ず(たとえ、そのフリでやらせてもらっている部分があっても?、その内実が伴っていないということである!残念で、悔しくもあるが、そのことは、当の本人が一番自覚していることである!)、そのことを、きちんと?自らに言い聞かせなければいけないということであった?!ただし、そうは言っても、その決着(踏ん切り?)の仕方には、自分なりの納得が欲しかった?!未練がましいと言われれば、それまでだが、問題は、いつ、どのようにして、その時を迎えるかであったということである?!

そんな中、その決着(踏ん切り?)の仕方に大いにつながるかもしれない(自分なりの納得が得られる?)、一つの夢想(哀しき美学?)が浮かんできた?!言い換えれば、このような自分が、これからでもやれること、否、やらなければいけないと思えることが、半ば忽然と?芽生えてきた?!あるネット記事を見ながらのことであるが、ひょっとしたら、今、私は、最後の決断?をすべき時が来ている?!ここで、それに対して、何もしない(or 言わない)のならば、私の「新・教育協働への道」も途絶えてしまう?!それは、あたかも、最近のうだるような暑さに負け、心身共にとろけそうになっている自分の無様な姿のようにも思える?!本当に、それでよいのか?そういうことでもあったということである?!

ということで、いつにもまして、怪しげな?書き出しとなったが、実は、それが、標記の「パラレルワールド(並行時空)」という論点・視座であり、そこへの言及が、私自身が、最後に出来る?否、今からでも遅くない?私がやらなければ、誰がやる?そういうことへの答となるのではないかということである(過剰な自信だと、失笑を買うかもしれないが?)?!ちなみに、もちろん、その「閃き?」自体は、直接的なきっかけとなったのは、件のネット記事であるが、ある意味、そのことについては、私自身が、現役時代から、ずっと考え続けてきたことでもある(ただし、そこでは、「パラレルワールド」という言葉、概念さえも知らず、結局は、己の身の処し方としては無様なものとはなったが!)?!

そこで、改めて、今回考えたことを示すと、まずは、「教育協働」という大きな視点、取り組みの枠組みを、まがりなりにも、これまで何度も(しつこい位に?)提唱してきた私であるが、その成果は、ある所には顕著にある!あるいは、大いに、その途上にある?!しかし、一方ではまた、多くの所では、その端緒は見られるが、なかなかその先が見えてこない(いない?)?!あるいは、まったくの未知(混沌?)に留まっている?!その違いは何なのか?そして、その違いを克服する手立てはあるのか?あるとすれば、どういうものなのか?そうしたことが、事あるごとに頭を過っていたわけであるが、今回、そこに、新たな要素、ある意味では盲点?だった、ある事柄(視座)が見えてきたのである(ただし、それへの言及が、多くの人の賛同を得られるものとなるかどうかは、別問題である!それは、あくまでも、私自身の納得の問題である!)?!

(2) パラレルワールド(並行時空)になれば、その間で苦悩する人達が出てくる?!

では、具体的に、ここで言う「パラレルワールド(並行時空)」という事柄(視座)とはどういうものかということであるが(もちろん、この概念は、元々は宇宙物理学のそれであり、短絡的な用語使用は厳に慎まなければいけないであろうが、ある集団の立場や言い分が、そうした関係に陥ってしまっている?ということの比喩として、大いに借用できるということである?!)、今回のネット記事の場合は、教員が属している(あるいは共有している)学校の現実(感覚)の世界と、ネット記事等で紹介されている研究者・著述者の理論や見解の世界が交わっていない(あるいは交わろうとしていない?)?!最早、双方は、次的に異なった世界にいる?!否、正確には、前者は、後者の世界(声)を見たくない(聞きたくない)、そういうところにまできているのではないかということである?!

例えば、今回の記事では、「個別最適な学びと協働的な学び」の意義や、それに呼応する教師の「子ども観と仕事観」へのアドバイスや努力の方向性が示されているにも関わらず、そのコメント欄には、残念ながら、現場の混乱・苦悩が分かっていない!そういうことよりも何よりも、まずは「人員を増やせ、予算をつけろ」というような論調・反論が多いということである?!また、「N先生は、次の学習指導要領はどのようになると思われますか?今のカリキュラムや学力の方向性が大きく変わることはないと思います。ただ子どもに学んでほしいことが多すぎる、カリキュラムオーバーロードへの懸念は世界的にも問題になっていて、日本も例外ではないかもしれません。学習指導要領の中で、教育方法を限定的に示すことは好ましくありません。現場の足かせとなり、自分にしか

できないよい授業をしたいという教師の気持ちを砕くからです。『個別最適な学び』や『協働的な学び』も、子どもの学びであって、それを実現する教育方法は多様に存在します。また発展するテクノロジーについて、学習指導要領でどこまで触れるのかというのも悩ましい問題ですが、授業の景色はさらに変わっていくかもしれません。先生が全然足りない教育現場、なぜか教育はこんな惨状になってしまったのか?ともある!

いずれにしても、私は、基本的には、どちらの主張(または理論)も正しいことであり、その双方が、同時に活かされて欲しいと思うのであるが、ただ、ここで、私が危惧するのは、「また、同じようなこと(綺麗ごと?)を言いやがって!」とか、「あなた達のようなお気軽な人が、外からどんなことを言っても、結局は、現場は何も変わらない!ただ、仕事や負担が増えるだけ!」というようなスタンスとか批判感情が、その当否はともかく、(学校)現場では、かなり強固に作り上げられているのではないかということである?!しかも、人の世は、残念ながら、こうした「パラレルワールド」を、知らず知らずのうちに(時には意図して?)、作ってしまうということである?!

ある意味、それはそれで仕方がないのであるが(誰しも自分が可愛いのである!)、敢えて私が言いたいのは、そうした状況において、その間で苦悩する人達がいるということであり(時には、自らの命を絶つ人もいる!)、さらには、そうした人達の存在をないがしろ(犠牲?)にして、その「パラレルワールド化」が進行してしまうということである?!しかも、最悪の場合には、それを生み出している本体自体も、消えてなくなったりすることもあるということである?!つまり、それぞれの人達の生きる場所(糧)である「パラレルワールド」が、別の「パラレルワールド」に飲み込まれたり、消されたりすることもあるということである(学校の統廃合等は、その最たるものである?)?!

極論すれば、いがみ合ったり、批判し合ったりすることができる間は、まだまだよいのであるが、それができる場や関係までもがなくなってしまうえば、お互いにとって、何のための言い合い、労苦であったのか?そういうことにもなっていく?!辛辣なことを言えば、教育とか、福祉とかというような、言わば「聖域」であっても、そうした力学(働くし、そもそも、その「聖域」というもの自体が、少なくとも組織・機関のレベルでは存在しないということである?)!

(3) 微力でも、細々でもいい!苦悩している「心ある人達」を応援したい!それが、私の…願い?!

理想と現実、理論と実践、行政と現場、経営側と労働側、保守と革新、与党と野党、etc. うまく描出できないものもあるが、言わんとすることは、そこに、埋め難い溝(ある意味では「心の壁」?)みたいなものが出来上がり、激しく対立し、醜い正否論争まで繰り広げ、結果、余計な時間と労力を費やさなければいけなくなることだって、往々にしてあるということである?!本当は、対立するために、それらがあるわけではないのに、いつのまにか、対立する(背を向け合う)ことが常態となってしまう?!しかも、そこでは、個々人の弱さかもしれないが、過度の人格否定や存在拒否にまで発展してしまう?!利害関係や主義・主張の違い、それらが、そうした事態を引き起こしているわけであるが、問題なのは、その関係が、常に相対立し、あたかも、それぞれが「パラレルワールド(並行時空)化」していく?!つまり、それぞれが、別個に自己目的化し、しかも、厄介なことに、それぞれのシステム・人間関係を、自らの存続のために(だけ?)動かしていく、あるいは自己増殖化させていくということである!

要は、大切な共有の時間と場所ではあっても、双方が、永遠に交わることができないような関係になってしまうということであるが、しかしながら、たとえ、そういう状況であったとしても、自らの信念や理想の下に、苦悩しながらも(時には、病気になる?)、健気に、今、どのようなことが必要なのか(求められているのか)を、広く、冷静に見つけ(め)、ここが重要であるが、数は少なくとも、そのことに心を寄せ合える仲間・同僚と一緒に、行動している人もいる?!繰り返すように、私は、そういう人達のことを「心ある人達」と呼んでいるわけであるが、そういう人達への、たとえ微力、そして、細々としたものであっても、可能な限りの応援をしたいのであり、それが、まさに、私が、これから(最後に?)やりたい(やれる?)仕事?だと思いたいのである!言い換えれば、まさにそれが、私の決着ということなのである!

しかるに、ここでは最後となるが、これまでの「教育協働セミナー」に替えて、新たに「岳陽チャンネル」という名称で、そこでの精神と成果を継続(発展?)させるべく、一人でも多くの「心ある人達」との交流、ネットワークづくりを、改めて志すことにした!それぞれが、それぞれの立場、思いで、日々奮闘しているわけであるが(時には夢破れ、疲れ果てた時期もあるorあった?)、その思い、その努力の姿を見合える(感じ合える?)場や関係が、今こそ、否、これからも必要であり、貴重なのである!しかし、残念なのは、その出会いや結集の術がなかなか見つからない?否、そもそもそういう時間が取れない(ある意味それどころではない?皆、忙しいと言えば忙しいのである?)!そういうことであつた?!

ついでながら、その課題(隘路?)を、少しでも解決するための工夫(日時、開催方法等)を、今回は考えたが、果たしてその結果は?初回<7/8(土)>は、直接参加することが出来なかった人が多かったが(その旨の連絡は多々あった!)、問題は、当然、この後である!それでも、成果が見出せなければ、それはそれで仕方がないが(それこそ終わりにしなければならない!)、コンセプトや交流の意味は、これまでとは、かなり違うものであり、新たな参画者も期待できるのではないか?そういうことも、思ったりしている!もちろん、この記事をご笑読されているみなさん(あなた?)の参画も、大いに歓迎するものである!(つづく?)